

はざま医院かわら版

平成 15 年 10 月 8 日

4 月には SARS（重症急性呼吸器症候群，通称サーズ）が海外で流行し多くの死者を出しました。SARS ほどではないにせよ，同じ呼吸器疾患であるインフルエンザも感染力の強さ，重症化し易さなどより用心しなくてはいけない疾患です。そこで気になる冬の風邪，インフルエンザの予防接種についてお話いたします。

インフルエンザはなぜ怖い

日本では毎年何人くらいの方がインフルエンザにかかっているのでしょうか。全国の代表的医療機関を受診されインフルエンザと診断される患者さんは年間およそ 100 万人弱と報告されています。その数にその他の医療機関を受診する患者さんの割合を掛けて，およそ 1000 万人がかかっていると考えられています。日本の総人口が 1 億三千万人ですから，少し多すぎるようにも思われますが，新種のインフルエンザが出現した場合には，人口の 25%，3250 万人がかかると言われており，それからすればさほど無理な数字ではないように思われます。

これらの患者さんから毎年数千人の死者が出ていると考えられています。その多くが 60 歳以上の高齢の方です。冬になると新聞紙上に上げられたりしているのを，目にされた方もおみえかと思えます。インフルエンザが原因とは不明のまま，肺炎とか心不全と診断されていることも多いと言われてます。しかしインフルエンザが原因と診断できないことも半ば無理のないことで，高齢者の場合インフルエンザの特徴である高熱や風邪症状が出ずに，ただ食欲がない，微熱があるくらいの症状しかみられない事が多いからです。その後肺炎になって入院，そのまま亡くなるという経過が多いようです。

インフルエンザの予防は可能か

インフルエンザの予防には抗ウイルス剤を内服する方法と，ワクチン（予防接種）による方法があります。日本では後者が主に行われています。ワクチンとはその年に

流行すると予測される株のインフルエンザウイルスを処理し無毒化したもので，約 1 ヶ月間隔で 2 回接種します。これによってインフルエンザにかかる前に抗体を作っておくことができます。血液中に抗体があると，いざインフルエンザウイルスが体内に侵入してきても，たちどころに抗体が取り囲んでやっつけてくれます。ただし効果がよいのはやはり若い方で，高齢の方は打ってもインフルエンザにかかることがあります。しかしワクチンを打っておくと，肺炎になったりする重症化は高い確率で予防できます。

ワクチンの接種時期と費用

生後 6 ヶ月～12 歳までの方は 10 月と 11 月もしくは 12 月に 1 ヶ月間隔で 1 回ずつ，計 2 回。それ以上の年齢の方はいずれかの月に 1 回接種することによって抗体を上昇させ，12 月下旬から訪れるインフルエンザ流行シーズンに備えることができます。費用は下記の表の通りです。当院では 10 月 14 日からご用意しておりますので，ご希望の方はお電話もしくは受け付けにてご予約ください。

	1 回目	2 回目
6 ヶ月～12 歳	4500 円	1 回目の料金に含まれます
13 歳以上	3800 円	
65 歳以上で名古屋市在住の方	1000 円	

患者さま来院時間帯，曜日調査のご報告

いつもお待たせして，申し訳ございません。当院では 9 月に患者さま来院時間帯の調査を行いました。その結果は 9 時台が一番多く，他の時間帯にいらっしゃる方の 2 倍くらいの方が来院してみえました。以下 17:30-18:30 台，16:30-17:30 台の順でした。空いている時間帯は午前中の 10 時以降の時間帯です。次に込み合う曜日については予想通りと言うか土曜，金曜，月曜の順でした。ちなみに雨天は空いております。ご参考になればと思いお知らせいたしました。